

## 第 25 回 日本木材学会地域学術振興賞

「木質材料の生産加工・品質安定化技術の開発による学術振興と  
中国地域の木材産業活性化への貢献」

川上敬介（鳥取県林業試験場）

この度は、地域学術振興賞という名誉ある賞を頂き大変光栄に存じます。ご推薦頂きました先生方、また選考に当たられました先生方に深く感謝申し上げます。

私は平成 5 年に鳥取県に入庁しました。県は、県産材、特にスギ一般材の利用拡大を目的として、平成 7 年に林業試験場に木材加工研究室を立ち上げ、私は行政機関から異動し同研究室に配属されました。今でも試行錯誤の連続ですが、当時から（国研）森林総合研究所や大学の先生方、公設試験研究機関の研究員の皆様、木材関連企業の皆様、職場の上司、同僚に支えられてきました。この紙面をお借りし、私に関わった木質材料に関する研究業務の一端をご紹介させていただくことで、皆様へ感謝の意を表したいと思います。

平成 12 年、鳥取県南部町でスギ 3 層クロスパネルの製造が始まりました。注目度は高かったものの、当時は製造技術が確立しておらず試行錯誤の生産が続き注文に対応できない、規格や施工マニュアルの整備が追い付いていない等、製造・販売で苦戦が続きました。私は企業の技術者とともに、原材料となる県産材の材質特性を把握し、それに基づく製造方法を構築、製品の性能把握と生産方法の改良を重ね、品質の安定した製品の量産に繋げていきました。この間、壁倍率の大臣認定や床用 3 層パネルの AQ 認証、平成 28 年には直交集成板（CLT）の JAS 認証取得に関わったことは私にとって大きな喜びです。

鳥取県境港市には日本を代表する合板メーカーがあり、平成 10 年代の前半から、スギ材を構造用合板の原材料に使用する取り組みが進み始めていました。私は企業担当者と森林組合や伐採現場に出向き、スギ材を合板の原材料として供給して頂くための橋渡しを行うとともに、合板工場ではスギ単板の材質や製品の性能について調査を行い、データを企業に還元しました。合板の原材料が国産材に移行していく過程に関わったこと、製造現場の緊張感を感じながら研究業務を遂行できたことは、私にとって大きな財産となりました。

平成 20 年には鳥取県日南町でスギ構造用 LVL の生産が始まりました。JAS の取得が急がれる中、肝心の単板の機械選別装置の導入が遅れていました。私は、木材学で一般的な「成熟材・未成熟材」による分けを製造工程に組み込むことで LVL の品質を安定化させ、JAS の認証取得に繋げました。また、丸太をトラックに積載したまま画像処理により材積を計測するシステムを全国に先駆けて実用化し、業務効率化とコスト削減に成功しました。

現場では様々な問題に直面しましたが、その都度対処できたのも日本木材学会という場を通じて、会員の皆様との良き出会いに恵まれたお陰です。ただただ感謝の一言です。

最後になりましたが、私の業績は、尊敬する先輩である故大平智恵子氏の地道で献身的な取り組みが礎となっています。木とそれに関わる人を愛し、「私達の取り組みで森林を元気にしたい」と願い続けた彼女の遺志を受け継ぎ、視野を広くして森林、林業、木材産業の発展に寄与したいと思います。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。